



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路

『第8回森林塾報告 テーマ「伐出」 材をいかに上手に出すか』

日本の国土面積の三割近い一千万ヘクタールを占める人工林の間伐もままならない現状ではありますが、さて間伐した木を山から出すという事は、また新たな難問です。 急峻な地形、不十分な林道、作業道密度等がネックになり、伐出機材を思うように林内に持ち込めませんし、急傾斜地では機械の十分な活躍



T-10は自重が2トン弱あるので何本もの丸太をがんに引ける



きのこのほど木程度の出しならひっぱりだこにおまかせ

も期待できません。勢い間伐はしたものの切り捨て、が多くなるのはやむをえないことではあります。でも、できるなら使えるものは山から出して、使つてあげたい気がします。 伐倒し、集材し、枝を払い、造材し、トラクに積む。そんな色々な大型の高性能林業機械が各地で活躍を始めていますが、森林塾ではもう少し小型で小回りのきく機械を体験してもらいました。ホイール(車輪)タイプのロギングトラクタ、クローラ(キャタピラ)タイプのキャタトラ、それと持ち運べる「ひっぱりだこ」というふざけた名前の

今回の内容 第8回 8月18日(土) 伐出 8時30分KOAバインパーク集合。涼風の流れる朝、今年の森林塾は雨の心配が全くない。保科先生、島崎先生のあいさつの後、車に分乗し現場に向かう。場所は前回間伐した箕輪町、萱野高原入り口の浦野山林へ。 班は前回と同じメンバー

ウインチを交代で動かしてもらいました。場所や目的に合わせた、安全な伐出の一端は分かっていただけでしょか。 残念ながら今回は架線集材は見てもらえませんでした。が、また機会があれば島崎先生が持っている自走式集材機による集材も体験していただければと思っています。



おひとついかが松ノ元さん

9時50分 一時間ずつ三種の機械を使うことに。まずはロギングトラクタ、イワフジ T-10

で三つに分かれる 9時 現地到着。島崎先生から伐出方法の説明。最近は一千万円以上する伐出用大型機械があるそうだが、日本のような急斜面、林道密度の低さ、小規模所有地林には不向きだとか。 今回はキャタピラトラクタ、ロギングトラクタ、携帯ウインチの三種を使うの集材。



キャタトラは自重800kg。木寄せにはアンカーをとりたい

の操作。なんだか難しいのだが、森さんは、はじめとは思えない鮮やかな運転。あつと言つ間に一時間。次に、ひっぱりだこを使っての集材。沢を渡つて倒れている木を引き出そうとしたが、三百三十キログラムまでのひっぱりだこではちよつと非力で動かず。しかし、動滑車を使えば倍の力がでて簡単に動いた。ん(。中学の理科を思い出す。 12時 昼食。車で約十分林道を登り萱野高原へ。すばらしい伊那谷の景色 1時20分 最後はキャタトラを使っての集材。やまびこ号はロギングトラクタに比べると運転が簡単。木の間を縫つ



「ひっぱりだこ」塾に登場するのは年3回だけ



森さんの介添えてイントラ宮崎手づくり橋を渡る

て玉切りした木に近づく。そして、玉掛けして、ウィンチで引っ張り、吊り上げて乗せる。初心者にも簡単に操作でき、作業がはかどる

2時30分 作業終了後、ロギングトラクターの後部ドラムを使ってのエンドレス方式の説明。これは、ロープをつないで輪にすることに、よりエンドレスにする。その間に滑車を入れてそこに材をつるす。動力はロギングトラクターのウィンチ使う。このような方法で沢を渡って材を運ぶこともできる



好奇心旺盛の栗林さんウィンチ操作



こちらは風見さん。操作はゲームより簡単

8時30分 KOAパインパーク集合。変更しましたのでお間違えの無いように。遅れないでね。現場は信州大学手良演習林手前の野底区有林をお借りして。

3時10分 ケガもなく無事に終了。現地にて解散



バランス良く荷が積みました。久部さんの斜面走行

次回以降の予定
第9回 9月1日(土) 林道設計

8時30分 KOAパインパークに集合。遅れないでね。根羽村は長野県最南端、愛知県に接し、県内では有数の林業地です。一九七七年から島崎先生が指導し、スギの大径材生産を目指しています。先生が最初に保残木マーク法



滑車を通すため、ショートブライスで輪をつくる

第10回 9月15日(土) 林業先進地の見学 (根羽村)

第11回 10月6日(土) 枝打ち、刃物の手入れ

効率性が求められるが、車両がコンパクトで間伐林分での移動性は良好。これも木寄せ時のアンカーを忘れずに。ウィンチ二基とドーザを装備し、車両中央で前後にねじれる機構を持つホイール式林内作業車。傾斜に強く、木寄せしたまま牽引して搬出が可能。基本的には一人作業であるが、二基のウィンチワイヤーを使った簡易なエンドレス索方式の集材時には、二人作業となる。



リレ-通信

実現した南アルプス山行 (仙丈ヶ岳山頂で阿弥陀如来になる) 佐藤 健太郎

七月二十一日早朝、前夜、研修所前で見た満天の星も消え、鳩吹公園の風車が少しづつその輪郭を現し始める。

今日は、南アルプスの女王「仙丈ヶ岳」に敷沢カールを見に行く日。研修所の前で、イントラの川島さんに見送られ、伊那市駅へ出発。歩き始めると、気分も徐々に高揚してくる。しかし、途中で左



膝のいつもの所が痛くなる。今日は無理かなと一瞬思うが、森林塾に通い始めて五回(第三回の樹木分類と、第六回の下草刈りを欠席)、まだ一度も伊那市駅から研修所迄、通って歩いたことがないので、ゆっくりでも行こうと決める。途中、駅前のコンビニで朝食をし、昼の おにぎり二つ 買って、駅前始発「高遠行き」のバスに乗る。

土曜日のせいかわ、バスは、ほとんど貸し切り状態のまま「高遠」着。下車した瞬間、夏の強い日差しでコントラストを増した周りの風景に、タイムスリップ を感じ、暫くバス発着所のベンチに一人座りのんびり する。江戸時代、高遠藩は三万三千石。春になると三千本の桜咲く高遠城址を左に見て、「高遠」を出発。村の山林面積が、九十七パーセントある長谷村に入

り、「戸台口」で下車。ここで長谷村営バスを待つ。

「戸台口」は、広いバスのロータリーと南アルプスの案内板、そして、丸いバスの時刻表が立つ静かな所なので、ここでも のんびり した時間を過ごす。まもなく、村営バス到着。乗客が一人なので、一番前の席(運転席の左)に座らせてもらい、少し得した気分になる。

「戸台口」から一人貸し切り気分に乗っていると、前方に突然、黒山の人。ビックリしていると、ここが「南アルプス」北部の登山口、小瀬戸鉱泉「仙流荘」前で、長谷村営バスの営業所や、マイカーの大駐車場もあり、湯治客や登山、北沢峠に行く人々で賑わい、夏山シーズンでも比較的静かな、山形の登山口との違いを感じる。

年後、今、バスの一番前に座り、ガイドを聞きながら「鋸岳」等、急峻な山並みと足元の深い沢を見ると、百年で約一メートル隆起し続ける「南アルプス」を体全体で感じる。

「バスは、エンジンを全開にして、見上げるような高低角(森林塾でやっと覚えた)で迫る「赤石山脈(南アルプス)」北部を流れる天竜川の支流、戸台川に沿って伸びる「南アルプス・スーパールンド」を登り切り、長野・山梨の県境、北沢峠直下に建つ大平山荘前に到着。ここで、半数の乗客とともに下車。すぐ、ザーザー という水の音に誘われて近づくと、清潔な木造りの山荘と、眼前遠くに「槍ヶ岳・穂高岳」等の「北アルプス」を見る。暫くすると、バスから降りた乗客の姿は消え、あたりは静寂に包まれる。聞こえるのは、水の音。時間も止まり、大平山荘前で幸福な気分になる。

「仙流荘」前で、バスは満員の乗客と荷物を乗せて発車。アーチ型の赤い「戸台大橋」ゲート前で停車。バスの運転手とゲートの管理人が挨拶をすると、ゲートは開き、開発が自然保護がで全国的に話題になった、「南アルプス・スーパールンド」にバスは入った。

「南アルプス・スーパールンド」は、長野県上伊那郡長谷村戸台から、山梨県中巨摩郡芦安村広河原迄、五十数キロメートル。「北岳」山頂で、工事中の林道を見てから二十数

る。新田次郎著「槍ヶ岳開山」文藝春秋(一九七七)

播隆上人が「槍ヶ岳」を開山した頃、日本の山林は、藩の厳しい管理下「木一本、首一つ」といわれ、「青森ヒバ・秋田スギ・木曾ヒノキ」等の美林も生まれたが、今は、ほとんど切りつくされ残っていないという。しかも、国土面積の約三十パーセントを占める日本の人工林は、貴重な資源であるが、燃料革命や少子高齢化等、社会情勢の変化で放置され、田畑同様、手入れ不足が進んでいる。人心の荒廃も社会問題化し、正に「国乱れて、山河無し」の環境が現れ始めている。

十数年前、ブナの伐採に反対したことがあり、今、人工林の手入れを学ぶため、山形と長野を往復している自分が、少し不思議な気もする。しかし、森林塾のお陰で「仙丈ヶ岳」にも登ることが出来た。

塾も残り数回、チェインソーや鉸、鋸の使い方より、列車の乗り継ぎが うまく なりそうですが、宜しくお願ひします。



リレ-通信

じいちゃんの血 塩谷 隆紀

普通のサラリーマンです、というと皆絶句される。なぜ森林塾に? 原風景が山なのか、顔も知らぬ樵の祖父の血が騒ぐのか。北海道は夕張生まれの札幌育ち。大学で上京して強烈な違和感。ここは死に場所ではない、と。それは今でも。

ただアメリカへ行きたくて乙仲に就職、一年の研修で実際に動かされたのはフランス! 前任者と3時間の引継ぎでは、あの苛烈なフランス人の性格と、灰色の泣きたくなるような風景に対決できず、F1レースばりの凱旋門の周りを運転しながら本当に泣いた。が、新緑と陽光が眩しい春には一転フランスがぶれ、一年では飽き足らず、帰国してすぐフランスに戻るため転職。飛行機部品を輸入し続けた4年後に帰国して身につけてたものはたっぷりの肝脂肪と「人生一度!」のラテ思考のみ。用足しフランス



語は今や全部忘れた。でもパリから二十分も高速で走れば三百六十度地平線の菜種畑や、どこにでもあるコンクリート護岸工事なしの田園風景は心のコアに刻まれた。

3つ目の会社に通う地下鉄の中で他人のように日経を読めず、同僚のように5分でランチを掻き込めない自分がいた。代りに読んだのは自身も骨太に生きる遠藤ケイの「男の民俗学」。袖、日庸(ヒヨウ)の死ぬまで同じルーティンの潔さを知って、日高山系で樵だった祖父の生活を思い、更なる資料を探しに都立図書館へ。その林業コーナーで鳥崎先生の「山造り承ります」に邂逅。はまった。

「山の現実には甘くない」と言われる。昔日の林業バブルを知る林家御大尽はいざ知らず、林業が貨幣経済で脚光を浴びるほど「甘く」なるとは考えていない。仕事の「起承転結」から言えば、林業ほど自分の仕事の完遂が見られない業種も珍しい。半世紀後の伐採なんて、ほとんどフアンタジーかSFだ。

それでも僕は山に行きたい。だって山仕事は楽しいもの。刃物の危うさ、美しさ、強さに触れる緊張感。弁当の蓋をあける瞬間。一日の汗を吸った背中がタオルを抜く爽快感はもう麻痺。何より一日無事であることの山の神への感謝の気持ち。いずれも「動機」に充分ではないか。山は「建築用材生産工場」でも、も

「建設用材生産工場」でも、もいつちよバブル来ないかなストゥクオプシオン」でもない。「経済効率」で林業を語るためではなく、山からの恵を「分相応に」もらう術を知り、それを伝える「山人」の精神を学びたい。でも林家がちょっとだけ儲かるような「構造改革」をしないと、僕のささやかな楽しみを味わう機会すら失われる。僕のような不屈きな「サラ林マン」がたとえお遊びとしても山に行くことで結果的に森林が健全化し、林業が産業として復権する端緒にはなる。

建築用材としてのアプリケーシオンが崩壊している今、「いい材なのになぜ売れない？」は売側の独善だ。だいたいコンビニ&モバイキ」で家を建てたいと思う世の中になる

とは現実的に思えない。新たな市場の可能性のひとは「木質バイオマス」利用では。で、周りを見回したら、我が社でプレスペレットターを扱っているではないの！でも担当者は冷めてい

る。無理も無い。今は日本ではストープなどの川下の市場も流通販路もない。悲しいかな弱小商社の論理ではバイオニアになるリスクは回避したい、が本音。ペレットひとつでも、北欧とは比較にならない峻険な山地からはコスト高も否めない。これが現実。

もうひとつ。建築用材として「一戸建て」にばかりではなくマンションに目を向けてはどうか。僕自身も中古マンションをリフォームした口だが、間取りを変えるパーティション材として間伐材をあたかもログハウスのように丸太で組めないか。マンションの住民だって「木の香り&ぬくもり」が欲しい。別に「通直」でなくとも節穴だらけでもいい。逆に間伐材で作ったテーブルや椅子、申し訳ないがあまり欲しいと思えない。

能書きたれるには技術が必須。僕にとって農林業は究極のアウトドアだ。鈍一本とダケカンバの皮のたきつけだけ持って山に入るマタギヤ樵。ストープもシユラフも不要。ダナーの靴とダクロンの速乾パンツより、両先生の地下足

袋とベトナムズボンの何とイナセなことよ！。その術のありつたけを盗みたい。その先に見えてくるものは、トトロの森か、バイオマスか、はたまた世界平和か！目の前のドングリの区別すら付かぬ漢垂れの僕にはわからない。じいちゃん、隔週でちよつと降りてきて俺にとりついてくれー！

今の僕には片道二百五十キロの伊那谷は遠い。ここをベースに生きていない僕には、遠い。きつと、おどろおどろしくて悲しくてそして愉快で楽しかった人間が生きてきた歴史が詰まっているんだろつな。

不感直前の今の悩み。能書きたれるには農と林、あるいはその両方の当事者になるべきではないか。隣の芝生が青いのは、実は本当に青いからだ。そう思えるほど、鳥崎先生・保科先生の顔には豊穡な皺が刻まれている。こればかりは「ワークマン」には売っていない。じいちゃん！じいちゃんもこんなに素敵に生きたのかい？

房が落ちやすく日持ちが悪いと一喜一憂の様子でした。自然相手は本当に難しいですね。

夏の暑さはお盆まで、と地元の人から聞いていましたが、その言葉どおり、帰省先の愛知県から帰ると、朝晩の風は涼しいから冷たいに変わり、夏の朝はたいい雲に隠れていた西駒方面の山頂がくつきりと姿を現すようになりました。赤とんぼも山から里へ降りて来て、稲穂が頭を垂れ始め、いたるところに秋の気配が漂ってきました。

先にも書いたとおり、盆休み中も帰省して伊那には不在でしたので、この地方の盆の行事を体験できなかったのですが、新聞を見ると各地に独特の行事が残っているようです。十三日と十六日の夜にたく迎え火・送り火は一般的のものですが、妻を束ねて作った三万灯(まんど)に火をつけて振り回す「振り万灯」や直径十五センチくらいの百八個の布玉を空中に高く張った針金につるして火をつける「百八灯(ひやくはつてい)」といった火祭り行事が伊那市の西箕輪では行われました。

他にも隣の南箕輪村では、盆休みをもう一日と、若者が地区の役員さん宅の玄関を十六日の夜のうちにバリケード封鎖してしまう「盆正月」という風変わりな行事があるそうです。封鎖された区長からは「盆正月。一日休んで」とお触れが回るそうですが、会社勤めの人が多い今では実際にその休みを楽しめる人は少ないとか。

まだしばらくは盆を伊那で過ごすことはなさそうなので、こついついた行事を体験する機会はないかな遠そうです。絶えることなく続いていてほしいですね。

「テツカマン」

おわりに
まったく雨が降らず、深刻な水不足になっている地域もあります。伊那界隈も一ヶ月以上まとまった雨が無く、ナスは硬くてまずいし大根などの秋野菜がが時けません。これほどの少雨だと秋の味覚きのこの出来も心配です。……などといっているうち

コラム
お盆休みは愛知県の実家の家業であるぶどう直売の手伝いで明け暮れました。天候がよかったですので早くから甘味が出た反面、水不足のため

他にも隣の南箕輪村では、盆休みをもう一日と、若者が地区の役員さん宅の玄関を十六日の夜のうちにバリケード封鎖してしまう「盆正月」という風変わりな行事があるそうです。封鎖された区長からは

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp

